



小田原史談

第25号 談目内
小田原史館
小田原市文化
郷土文庫

印刷の御用は
清水印刷

小田原市幸一ノ一七
電話小田原三四七七番

写真 郷土文化館に陳列せる「木鬼の家」の模型と小田原在任中の遺墨の一つである短歌

いつしかと春も名残りとなりけり
り昆布はしほのたんぼほの花
白秋

小田原における 北原白秋

小田原は白秋が五十八年の生涯のうち、もっとも変化の多かった土地である。白秋が小田原に居を構えたのは大正七年二月である。落ちつく暇もないほどの流浪生活をつづけた白秋が、小田原へ移住してから漸く生活の安定を得て、大正十五年(昭和元年)四月東京谷中天王寺墓畔に移住するまで、白秋の工夫した「木鬼(みみづく)の家」に住していた。はじめの住居は十字町四丁目お花畑で同年の秋に天神山伝筆寺の庫裏の一間を借りて移り、散文「雀の生活」を雑誌「大観」に連載しはじめた。この頃から鈴木三重吉の「赤い鳥」も出はじめて、ようやく白秋の生活も安定することとなり大正八年の夏伝筆寺の脇にあっての小笠原生活の記憶から島民の住居を模した草葺の小屋を建て、これを「木鬼の家」と名づけ又その隣りに方丈風の書齋を新築した。白秋の二度目の結婚というべき江口章子との生活は「木鬼の家」が出来て一年目の大正九年六月に改めて本建築の新館を建てることになったその地鎮祭の後に早くも破綻を来して章子と離縁した。その年の八月に「白秋詩集」第一巻を出し、十月には散文集「雀の生活」を刊行し多忙な著述生活を送って、翌年

直情直言

兼田長平

天守閣が再建されて既に四年、小田原市はこれによって観光都市として一躍有名となった。私は天守閣を仰ぐたびに、当事者の英断と努力がみもった結果に外ならぬことに想到して敬意を表する。しかして当事者はこれに満足せず、なお進んで観光施設について考慮をほらわねに入れていただきたいことは、有名人の詩碑や歌碑等を適当の地に建設せられてはどうかということである。今日は碑の建設が一つの流行となり、歌人吉井勇の碑が全国に三千近くあり、若山牧水の歌碑も同様で、特に珍らしいのは牧水の像付の詩碑が海抜一〇八六メートルの群馬県下の暮坂峠に建てられている。わが小田原市でも郷土文化館の支那前に北村透谷や福田正夫の碑があり、箱根強羅には斎藤茂吉の歌碑があって観光の注目を惹いているが、この外にも市に縁故深い有名人の碑が建て

年四月過去の私生活を一新するために佐藤菊子と結婚した。この結婚はまさに苦汁をなめた青年時代の流浪生活に終符をうったようなもので、はじめて生活の落ち着きを得ることとなり、大正十一年三月には長男隆太郎が生れ、同十四年六月には長女雪子が生れた。鈴木三重吉主宰の児童文学雑誌「赤い鳥」の創刊されたのは大正七年で、その時白秋は「赤い鳥」の童謡を分担することになり、これが期せずして白秋と三重吉とは児童文学の双壁となり、白秋の童謡が全国を風靡する基因となった。

白秋の小田原在任中はその他に「詩と音楽」(山田耕筈と共同)、「白秋詩集」「日本の笛」「水墨集」等多くの著作がある。

大正十二年九月一日の関東大震災によって「木鬼の家」は半壊となり、それ以来廃墟の如き家になって多忙な著述生活を続けていた白秋は、大正十五年四月に約八年間親しんで来た小田原の地を去って行った。(白秋の遺品等は郷土文化館内に一室を設けて一般に展覧している。)

白秋は明治十八年一月二十五日福岡県山門郡沖端村(現在柳川市)の酒造家に生れ昭和十七年十一月二日東京阿佐ヶ谷の自宅で五十八才にして世を去った。

もよいのではないかと思う。これらの碑が観光に役買っていることは城ヶ島の北原白秋の詩碑、真鶴の与謝野昌子の歌碑が、一層観光地を価値付けるのを見てわかるのである。なお有名な碑はひとつの観光地を以てなく、子弟の教育上にも役立つものではあるまいか。ただこれを建つる上においては風致の問題もあるので適当の地を選ぶべきならば勿論であるが、さらに一つ付け加えておきたいのは、天守閣入口下の庭地の付近に、北条早雲の像建設の事もゆくゆく起るのではないかと思うので、これらも今より考慮に入れていただきたいことをお願いする。



(四)

古代のわが郷土 ④

内田 武雄

千代台の廃寺跡の礎石が殆んど欠失してしまっているのは反対に、この海老名の国分寺跡の礎石は実によく保存されているのである。ただ私にとって疑がわしいことは、その伽藍形式に依っていること、何故にこの地の国分寺だけが(？)古式の伽藍配置を残しているかが私には説明がつかない。然し地名的地名からはこの地に「国分」の地名が遺存する以上、この寺跡が国分寺であることは疑えないのであるが、然しこの寺が最初から国分寺であったかどうかについては尙問題が残ると思う者である。

千代台に現存していた古式寺院をもつて国分寺に代替したのではなからうかという疑いである。この疑いは単に国分寺としての寺院形式の古さから来るばかりでなく、附近に国府の跡を伝える地名の伝承が殆んど見られないことからも来ている。勿論この国分寺跡と同尼寺跡との中間の小田原本線の南側の所をこの地では、国府の跡と伝えられているが、地名の上では何一つそれらしい関係地名は残っておらずただ一つの東の目久尻川から水を引いた古い運河(遺構が数年前発掘され、その運河に沿って元倉又は船頭屋敷の地名を以って国府所属の正倉の跡と考へてこの地に国府の跡を求めた程度で地名的地名からは海老名の国府関係地名はまことに乏

しいと山田弘通氏は海老名の付いてはこのように書いておられる。尙一部の人は国分寺南大門跡の南の市の神と称する地を、南府当時の市場の跡と解し海老名国府説の傍証の一つとするようであるが、然し前にも述べたように、天平十三年三月国分寺造営の精神からしても、即ちその詔勅の言語の中に「人に近ければ則ち萬民の及ぶ所を欲せず」とあって国分寺に關しては門前市というようなことは考え難いので、この市の神をもつて国府関係地名とする説は私は賛同出来難いのである。私は私考している地名的地名からの海老名国府説は、上府中国府説(或は酒匂国府説)とは国分寺関係で遊比例する立場にあると言い得られる。

ところでこの地にある国分寺が飛鳥式寺院形式をもつ所から、弘仁十年の焼いたによる振替昇格の古式国分寺であったとすると、その際、国分寺に遷されたこととなるが、国府は被災したかったので、元の所に在ったとすると、この海老名の地に国府関係の地名が無いことも当然である。ある者は千代(片)と言う人もあるが千代(地名)は古くこの台地近くを流れていたと言うから、隣国の駿河国府に近い安部川畔に千代がある、常陸の国府の石岡市を流れる恋瀬川右岸には千代田村があり、丹波の国府に

近い大川堰の右岸にも千代の地名があるし、因幡の国府附近を流れる川は千代川とあるほか各地に河辺地名として千代地名が多いので、この千代地名が庁を意味しないこの河辺地名であったと解釈すると、相模国府はこの千代台から余り遠くない所であったことには違いないであろう。これは第一期国府は酒匂にあったもので、私は信じている。当時の駅路から考えて見ても、坂本・小糸・箕輪・浜田の駅順なれば先に述べたように兵部式の言う道順は各国の道順の不合理はなくなると私は思う。私は千代台の国分寺説をとなえるが千代台の形と図面の上では全く同じで、東大寺の敷地をちいさくしたのが千代部落ではないかと思われるほどよく似ている。寺院の配置、道路のわり方等全く同じである。又、上野国の国分寺の寺院及び地形はほとんど同じよう千代台に国分寺があったものと考へる時尼寺は国府海をへだてた別所の仏体か鏗今の別所の薬師沢にあったようである。この薬師は一名焼薬師と言われ、行基菩薩の作と言われ、なかなか見ごとな作であるが焼薬師の名の如く一部分が焼けているが作としてはなかなかりっぱなものではなかなかもこのお薬師様は下管我

の山彦山の薬師沢に祀ってあったものであるが、北条氏没落の時、小田原唐人町の支那人葉七官の配下の者来りて草庵を結んで礼拝していたが、後に地名は谷津法輪寺の末寺となり明治初年廃寺となつて今では薬師堂だけが昔のおもかげをとどめている。山号は中華山志福寺本尊瑠璃光薬師如来、脇侍十二神将行基菩薩作と言われている。(完)

話のひろば

オカミ談義

孫文が、かつて日本に亡命してきたとき、横浜のある料亭にかくまわれていた。その後になつて、犬養毅の邸内にかくまわれた。そのとき孫文は、犬養令夫人に対して「オカミ」と呼んで、びっくりさせたという。横浜の料亭にいたとき、一番偉らしい人を「オカミ」とみんが呼んでいたもので、犬養邸に来ては令夫人のことを同様と呼ぶものと感違ひしたのである。

昔、宮中の行事に奉仕する京都周辺の庄屋連中が、宮中奉仕の名譽を子孫に伝えたいために、大名などと同様に越前の守とか尾張の守とかいうように守号の呼

び名を所司代に願ひ出た。時の所司代飯倉重矩は、そのつけあがった言いぶんに腹を立てたが、すぐ却下するわけにもゆかず、考えたあげく

「願ひの趣許す。しかし大名の守方と区別するために「の」の字をはぶいて呼ぶことにせよ。」

と許可を与えたが、さて美濃の守、土佐の守から「の」の字をはぶいてみたら美濃ガミ、土佐ガミとなりチリ紙、ハナ紙となつてしまふ。許可は出たものの、とうとう称号をやめたというのである。

「オカミ」という言葉はいろいろの意味に用いられる。大神の約、お上みとして天子やその他の尊称、町家の妻女の称、若者屋料亭などの女将等々

その他あげれば限りがない。(M)

水の流れと 人の身は 行方定めぬ 世のすがた 晴れの雑新の 大葉も 足音絶えて 幾星霜 ああ 明治は遠くなり けり (民謡)

飯泉八幡神社縁起伝記

飯泉 浅見 靈風

当社は今を遡る千九百九十九年の昔、千代台地に時の権僧大臣禪師弓削道鏡が自ら大壇那となり姫の広方を名代として三輪の女齋僧都咒願師となつて国分寺域内に福徳女帝より賜りたる念持仏の十一面観世音を本尊として補陀落山弓削寺を創建するに当り、尊像守護神として南都東大寺内の鎮守八幡を分靈勧請、金堂より乙の方、東大門内に西面して創祀せらるるに始まる。

金堂に対する鬼門除けとしては現在千代に於て祭祀さるる三島社を当て、当社は霊域の守護神となす。即ち天平神護元年高家伴都千葉勧請を以て嚆矢となす。国分寺開建五十四年目、弘仁十年二月四日暴西風で寺堂火を発して殆んど焼亡し、観世音尊像も寺僧必死の抱出しに依つて辛うじて灰燼を免れ得たる惨状は御本尊右背懸焦痕にて彷彿たり。時に八幡神社ともに焼失せしや否や定かならず。寺伝に謂う、道鏡下野国薬師寺別当に左遷されて東

地の東方二百五十米突の地点に「観音屋敷の旧称ありて、その坤の方に元八幡社と称する小祠あり。旧寺地東方を「舞台」といふ水田地なり。或は千代を離れたる本尊に從う八幡社も運命を共にして幾十年間甚悪の草地に逼塞を余儀なくされたるか。尤も当時の東海道は下新田、今井線にして、

渡河地よりの観音詣道は寺前に於て○上通と称し敷戸の旅宿ありたれば、篤信の観音巡拝者少なしとせず。同時代の記録史になし。超えて上杉禪秀の乱平定に功ありし大森式部大夫頼明、管領足利持氏より小田原地方を与えられて旧家小早川一族を斥けてその子頼春を城主となす。時に応永二十三年、今を距る五百四十八年前、大森氏城主となるや城壘の工を起すと同時に領内の寺院仏閣の復、再興、又は移轉に努力、飯泉観世音が良方表鬼門なりとして諸堂再興に信仰ありて良門の鎮護となす。守仏八幡社亦再建さる。之即ち現在の坂東五番飯泉観世音金堂並に鎮守八幡神社にして神馬堂白馬像の再建に加え

由來飯泉先住民族は天孫族にして南方民族の東漸農耕者を創始とし氏神は伊勢皇大神にして傍系民族祭祀には牛頭天王、山王神、石神(おしやま、さん)あり

老杉古松鬱蒼たる部落西端酒匂川縁に石祠を祭つて年村政の中心神事となす。然るに観世音守神として新たに八幡神社建立せらるるや、仏教信仰隆盛の影響を受けて氏神信仰は鎮守信仰と代り旧教は吸収されて散在せる石祠は神社の鳥居内両側に並置されて原形を止めず現社域西方を「伊勢の宮」と古称を残しその西辺松田小田原街道となる下庭の小字名を称する古名にても伊勢皇大神を以て氏神信仰たりし実証とすることを得。

堂同年にして新築再興を見得るか、未だ飯屋根に覆われて見る影もなき現在、且つ又八幡神社運管が部落に移管して村民衆社屋新築の議題多年に及ぶと雖も、主

観從幡を余儀なくされて八幡社殿の再建、撰社伊勢神社、天之穂日命社及び末社稻倉魂(宇賀之魂)命社、天満社、天王社、山王社、等社字完工いつの日か、近き将来の再起工も希望薄き処なりとす。此処に飯泉八幡神社の経歴の一端を示さんとすも華竟十一而観世音本尊の守護八幡たる關係上、観世音縁起に多筆せざるを得ず。これを諒とし以て社歴を推説されんことを希うものである。

彙報

愛しい友よ わが同胞 教えを守り 強く明るく 正しく生きよ、悦びもちて 桜井 桜井 桜はひらく

▼小田原市出身の詩人井上康文氏は市立桜井小学校開校七十年に際して左の校歌を作詞去る十月一日の記念式にこれが披露があった。(作曲は平井康三郎氏)

一 誇り高き わがふるさと あしたに仰ぐ 富士の白雪夕に望む みどりの箱根 桜井 桜井 桜はひらく

二 流れは清き わがふるさと 相模の海の 白波歌う われらのてほん 尊徳先生 桜井 桜井 桜はひらく

▼第十回小田原市民文化祭に際して史談会にては十一月一日より十日まで郷土文化館において古灯火器具展を開らき、古代より現在にいたる灯火具数十点を陳列一般に展観、灯火の変遷史の上から極めて有意義に終わった。

▼十月二十七日文北祭のトップをきつて小田原教育委員会と琵琶同好会の主催で琵琶演奏大会を午後一時より駅前御湊端通りの柑橋会館において挙行し、わが史談会もこれに参加して、副会長の落合信一氏(号洲湘)の石童丸及び理事兼田長平氏作詞の小田原城を一水会元支部部長杉山良水氏演奏して共に好評を博した。当日の出演者は洲湘派の野地田月水氏をはじめ職員十六名、来聴者約百名にて盛大であった。

<p>高級陶器の店 小田原市緑1~103 小田原銀座通り 株式会社 江島屋陶舗 TEL(0465)5427</p>	<p>甘露梅 月の衣 小田原駅前 正栄堂菓子舗 電話 5311 5312</p>	<p>寝具の店 花田屋 小田原銀座2 電話 3788番</p>	<p>カメラ・写真用品 なんでも揃う カメラの光輝堂 小田原駅前 TEL 5965 4859</p>
--	---	--	---

<p>東海化成株式会社 取締役社長 滝本友信 電話小田原五九二七番</p>	<p>資生堂ホールセール(特契店) ベルマン, パピリオドール, マ ナー, キャロン婦人靴下代理店 有限会社 山一商店 小田原市井細田428 電話 3553</p>	<p>建築金物 家庭金物 株式会社 星崎仲吉商店 小田原市多古412番地 電話 2718</p>	<p>畳表・日用品 問屋 茶利商店 小田原市多古25 電話2341・2374</p>
---	--	---	---

<p>御料理仕出し 御弁当 株式会社 東華軒 代表取締役 飯沼相三郎 小田原駅前 TEL(0465)5061~2</p>	<p>純良医薬品 株式会社 オタワラ薬局 錦通り電三、〇四八</p>	<p>化粧品 おしゃれ彩華 松屋 小田原錦通り 電話三三三三六</p>	<p>銘菓 松風 千代菊 銘菓 甘露梅 銘菓(県指定の店) 電話 2376 集栄堂本店</p>
---	---	--	--

<p>平野商会 平野久雄 小田原市十字三 電話(〇四六五)二四四九番</p>	<p>写真 イガラシ 小田原市幸3 TEL2534番</p>	<p>趣味の陶器 江島屋 小田原箱根口 電話6602</p>	<p>船志澤 TEL3131</p>
---	---	---	-------------------------------

<p>印刷物は 弘英印刷 小田原市井細田八一 電話四、一〇八番</p>	<p>楽しい生活 明るい読書 八小堂 小田原駅前 TEL5388~9</p>	<p>小田原報徳 自動車株式会社 太陽自動車 株式会社 代表者 曾我律之助</p>	<p>伊豆箱根鉄道株式会社 大雄山線 運営事務所</p>
--	---	---	---

<p>あなたの洋品店 はふや 小田原幸町 TEL2307</p>	<p>株式会社 小田原百貨店 社長 神戸英次郎</p>	<p>きそば庵 小田原駅前 電話二八六二番</p>	<p>松坂屋製菓本舗 小田原市十字二 電話五二七六番</p>
---	--	--	---